幼児期の遊びと友だち関係について

大久保　和　子

Ⅰ　研究目的

子どもは，誕生の瞬間から社会的存在である。そこにおける社会関係は，消極的，受動的であるが，成長発達とともにその関係は，積極的，能動的になる。この変化は，子どもの依存的生活から自主独立への方向であり，社会的調和への方向を示すものである。

このような自己中心的存在から社会化への発達の過程において，望ましい方向づけは，幼児期の教育の重要な分野と思われる。そこで私は，縦の人間関係の系列である家庭から横の系列である保育園という集団生活をする中で，最も自由に，自発的に個々の幼児が自分の欲求のままに行動するであろう「自由遊び」の時間に，どのような遊びを行ない，どのようにして友だちとの相互交渉が発生し，コミュニケーションが複雑化するかを具体的行動のなかから探り，幼児期の個から集団化への過程を把握しようとするものである。

Ⅱ　研究の方法

1.　観察の対象

岡山市伊島保育所　3才男児A，女児B
　　4才男児C，女児D

2.　観察の項目

(1)　活動の種類と内容
(2)　活動の持続時間
(3)　集団の大きさ
(4)　環境設定と教師の助言

3.　観察の方法

午前8時30分より，学級全体の活動のはじまるまでの自由遊びの時間30分を行動観察し，記録用紙に記述する。

4.　観察回数

1回　昭和45年5月22日
2回　〃　6月26日
3回　〃　7月17日
4回　〃　9月11日
5回　〃　10月15日
6回　〃　11月12日

Ⅲ　結果と考察

自由遊びの時間中に観察された幼児の遊びをパーテン（M. parten），ニューホール（S. M. Newhall）らの社会的参加の度によって，①ひとり遊び，②傍観的行動，③平行的な遊び，④ふたり遊び，⑤連合的な遊びの5段階に分類し，個人別にそのあらわれ方を第1表に示す。

第1表　　個人別にみた遊びの頻数と時間

年令 / 個人記号 / 遊びの段階	3才				4才			
	A		B		C		D	
	頻数	時間	頻数	時間	頻数	時間	頻数	時間
ひとり遊び	7	分 9.83	5	分 17.90	6	分 8.75	4	分 10.34
傍観的行動	6	14.45	4	9.26	3	10.00	3	26.44
平行的な遊び	10	46.24	7	46.91	4	14.38	6	34.48
ふたり遊び	2	11.56	3	4.94	5	31.88	2	8.09
連合的な遊び	3	17.32	2	17.28	5	24.38	2	6.36

3才男児Aについては，平行的遊びが頻数，時間ともに最も多く，つぎは傍観的行動であり，ひとり遊びが少なく，ふたり遊び，連合的遊びがかなりみられる。このことは，A児の遊びが，平行的な遊びを中心にして徐々に連合的な遊びへと移行する段階と思われる。

女児Bについても，A児と同様，平行的遊びがしめる時間は多く，その割合はほとんど同じである。つぎはひとり遊びと連合遊びが同じ程度にみられ，ふたり遊び，傍観的行動はわずかである。

4才男児Cについては，ふたり遊び，連合遊びがかなり増加し，平行的遊び，傍観的行動，ひとり遊びの順にわずかずつ減少している。このことは，C児はA児，B児に比較して社会性の発達は進んでおり，ひとり遊びの段階は，ほとんど脱し平行的遊びから連合遊びへ移行する段階のようである。

女児Dは，A児，B児と同様，平行的遊びが最も多く，つづいて傍観的行動，ひとり遊びが多い。ふたり遊び，連合遊びはわずかにみられるだけである。このことは，D児が同年令のC児に比較して社会性の発達はおそく，ひとり遊びから平行的遊びへの移行の段階と思われる。

つぎに遊びの段階別に4児の遊びの内容を働きかけの対象とその方法，時間，集団の大きさなどから考察をする。

1.　ひとり遊び

個人記号	観察回数	働きかけの対象	時間	働きかけ方
A	1	鉄棒	分 2	鉄棒に足をかけてぶらさがる。
		のぼり棒	1	棒のまわりをまわる。
	2	すべり台→うさぎ→築山	12	すべり台をすべっておりる。うさぎ小屋のまわりをまわってのぞく。築山から両足とびでとびおりる。
		鉄棒→てんとう虫	2	鉄棒によじのぼる。花だんでてんとう虫をさがす。
	3	すべり台→ジャングルジム	5	すべり台をすべる。ジャングルジムで懸垂をする。
	4	蛙	1	水をふくんで，かけ廻る。
			2	蛙を見つけ，捕ようとする。
B	1	水	2	コップに水を入れて水あそびをする。
	2	水道	3	水道の鉄管によじのぼる。
		水道	2	〃
	3	砂場の草	4	手にちょうをかいてもらって，よろこんで走り廻る。
			4	ぬいてある草をいじる。

C	1	タンポポ バラ	1 3	砂場のそばでタンポポの綿ぼうしをみつけ吹く。 垣根のバラの蕾をいじる。
	2	うさぎ	5	水をやる。うさぎをだく〝こらこらうさぎ〟と話しかける,
	3	のぼり棒 ブランコ	4 2	のぼり棒をのぼろうとするがのぼれない。 鉄棒のように柱をまわる。
	4	トンボ→タイヤ	1	おいかける〝とんぼは目が大きいの〟と一言いう。 タイヤを並べる。
D	1	うさぎ→にんじん→葉→石→盛山	23	うさぎをみる。人参をもってきてやる。そのにんじんを金網にこすりつけるうちにセメントにこすりつけ絵をかく。葉や石でかく。築山へのぼる。
	4	紙細工のちょうちん→柱	15	もって歩き廻る。柱につかまりまわる。
	5	水たまり	6	水たまりに手をつけたり，入ったりする。
	6	草→すべり台→築山→蛙→三輪車	11	庭の草を拾って歩く。すべり台をすべる。築山へのぼり，すべりおりる。蛙をおう。おいてある三輪車にのる。

ひとり遊びは保育所という集団保育の場にありながら，友だちとは無関係に幼児ひとりひとりが自分の要求どおりに，自分勝手に遊ぶ段階である。この遊びのあらわれ方をみると，A児．B児，C児は5月～7月頃までに多くあらわれ，9月以降には減少し，持続時間は2分～3分が多い。これに対し，D児は5月～10月までの長期間にわたって，ひとり遊びをし，その持続時間も6分～23分と比較的長くひとり遊びをじゅうぶん楽しんでいるようである。遊びの内容についてみると，遊具による遊びが多く，その働きかけは，鉄棒によじのぼる，すべり台をすべる，ジャングルジムをのぼるなど，幼児の目前に設定された遊具に対する単純な行動が中心になっている。また飼育しているうさぎをみる，餌をやる，抱く，蛙やとんぼを追いかけるなど，身近な動物や季節の小動物を対象にする遊びもかなり多くみられる。一方，働きかける対象はなく，自分自身の身体活動を主とした走りっこなどもみられるが頻数は少なく，持続時間も短かく幼児の運動的欲求を満足させる遊びにはならないようである。これらのことから，ひとり遊びは2・3才に最も多いが3・4才にもみられ，遊びの内容は，何となくぶらぶら歩き廻っている過程において興味を誘発された身近な遊具や，偶然出あった動物に働きかけるようであり，社会的な面からは，未成熟な段階の遊びと考えられる。

2. 傍観的行動

個人記号	観察回数	働きかけの対象	時間	働きかけ方
A	1	すべり台	5分	保母が他の子どもと遊んでいるのをみて楽しむ。 庭を1回りしたのち，この子どもたちの後をついていく。
	2	砂遊び	2	砂場のまわりをうろうろする→他の子の遊び（7人）をみながら，ひとり言を言う。
	3	砂遊び	2	他の子がつくっている山をみている→足でふみつけてこわす。じゃまをする。
	4	砂遊び	3	砂場のまわりをうろうろ歩く。
	6	かけっこ 砂場	4 1	みる→かけっこのグループへ行きかけるが，ひきかえす。 みる→しゃべるをもってくるがしないでみる。

B	1	うさぎ→築山	2	うさぎをみる，築山にあがったり，おりたりをみる。
	2	タイヤ遊び	12 2	柱によりかかったり，立ちどまったり。 みる。
	5	かごめ遊び	3	庭を歩きながらみる。
C	1	のぼり棒遊び	3	ぼんやり他の子どもの遊びをみる。
	2		3	特定の遊びでなく，園庭の遊びをぼんやりみる。
	5	箱いじり	1	ぼんやりみる。
D	1	うさぎ	7	うさぎ小屋をぶらぶらみて歩き，のぞいてみる。
	2	保母→ボール	7	保母をみながら歩く→ボールを拾ってもってみる。
	3		4	ぼんやりみる→仲間を呼ぶ→保母のそばへいく。

傍観的行動は，他の幼児の遊びをじっとみまもって楽しむ，また，他の幼児の遊びに興味をもち，自分も仲間に加わりたい欲求をもちながら傍観している段階である。A児については，すべり台，砂遊びなどをみて楽しんでいるうちに時々話しかける，砂場遊びなどの道具をもってくるがもったままで傍観する，かけっこのグループなどの後をついて走るなどの行動をおこすが交渉はもたないで大体は傍観している状態が多い。B児，C児，D児は何となくぶらぶら歩きまわってみる，ぼんやり他の幼児の遊びを眺めているなどの行動から，たまたま通りかかった保母や友だちの後をついて歩く，ころがっているボールを拾ってもつなど衝動的に行動は変化する。これは入園当初の集団生活に慣れない時期，または登園して自分のとりくむ活動がはっきりしない，いわゆる情緒不安定な状態に多くみられる。このように傍観的行動には2つの型がある。

3. 平行的な遊び

個人記号	観察回数	働きかける対象	集団の大きさ	時間	働きかけ方
			人	分	
A	1	金網のぼり ジャングルジム すべり台	4 4 2	2 9 1	他の子の遊びをまねてのぼる のぼったり，おりたりする。 すべる
	2	おたまじゃくし 蛙とり	3 2	5 5	いっしょにみる。話しかけるが相手なし。 A「あっとのさま蛙」「ほら」「今捕っちゃうか」と独り言。
	3	魚(製作)いじり 笹舟つくり	2 2	7 12	いじりながら話す。 他の子のそばで作るが失敗する。
	4	トンボとり	3	6	他の子どもをまねておいかける。
	5	砂場遊び	2	22	砂型でプリンをつくる→木の汽車をつなげる→しゃもじで橋をつくる。仲よしの友だちの側で独り言を云いながら立つ。
	6	砂場遊び	4	10	プリンをつくる。
	1	砂場遊び	4-5-8-3-4	23	プリンをつくる，独り言やうたを口ずさみながら。 まわりの子どもの変動には関係ない。
	2	タイヤ遊び 亀をみる	3 2	5 2	関係なく，とんだりおりたりする。 B「かめみて」「やーかめさん食べ物がない」など独り言。

B	3	砂場遊び	2	5	他の男の子が蛙と遊ぶのをみて「蛙だってみてごらん」など勝手に話す。
		ジャングルジム	3	7	のぼったり，とびおりたりする。独りでうたをうたう。
	4	砂場遊び	4	28	ケーキやプリンをつくるが関係なく各自独り言を云っている。
	5	ジャングルジム	6	13	のぼったり，おりたりする。Bに他の幼児が「これでんわにしようや」と話しかけても，反応ない。
C	1	のぼり棒	3	5	保母について歩く，のぼり棒をまわる。
	3	砂場遊び	2～3	12	砂を掘る。B「これたべて」「なに？」「おだんご」など時々会話がある。
	5	すべり台	5～6	4	すべる，友だちのボールを拾って投げる→うける。
	6	ビニール洗い	3	2	保母のビニール洗いを他の子どもといっしょにみる。
D	2	芝あつめ	2	13	芝刈りをみる→ひとりひとり集める。
	3	鉄棒	2	11	ぶらさがるD「鉄棒じゃない」など話しかけるが相手は無視する。
		すべり台	4	2	すべる，途中で「あがれ」の命令がある，無関係。
	4	テレビをみる	11	15	
	5	かめ	20	4	水の中へかめをいれ，さわったり，みたりする。
	6	砂場遊び	3	15	汽車に砂を入れて走らせる「これかして」の会話と道具の借しかりがある。

平行的な遊びは，ひとり遊びからつぎの友だち関係をもつ連合的な遊び，協同遊びへの準備段階といわれる。この平行的な遊びは4児に共通してみられるが，C児，D児よりA児，B児に多い。この遊びの場は，砂場が最も多く，つづいてすべり台，ジャングルジムなどを利用する運動的遊びの場である。また，季節の小動物などをいっしょにみたりする遊びもかなり多い。これらの遊びの場での集団の大きさは3才では2人～4人位が多く，最高は8人ぐらいになる場合もみられるが，そこでの友だち相互の関係はなく，言語活動も自己中心的であり，集団的なひとりごとが多く，同じ場で同じ物を用いて，自分勝手に遊んでいる。4才児においても遊びの場は3才と同様であるが集団は2人～20人までに拡大され，持続時間も長くなる。また，A児，B児に多くみられたひとりごとは話しかけや短い会話となり，命令的なことばもあらわれ，今までの自己中心的な言語活動は自分と相手との交渉のための重要な役割へと発達する。

4. ふたり遊び

個人記号	観察回数	働きかけの対象	時間	働きかけ方
A	2	鬼ごっこ	5分	相手の子がスキップをしている後をまねてとんでいる。→おいかけっこをする。
	3		5	金網を拾う→近くの子にあてる「いたい」と逃げる。よろこんで追いかける。
	2		3	手をつないで庭を歩く→山にのぼる。

B	5 6	虫とり 手押車	5 6	網をもらう→手をつないで走って虫を探す。 車にのせてもらう。
C	1	築山 のぼり棒	6 2	車をひっぱっている子の後を追いかける→競争になる。 まわりをまわる「まわすな」「どけどけ」と自己主張強い。
	2	追いかけっこ	5	ルールがあり，あてられたら逃げる方と追いかける方が交代する。
	4	すべり台	29	「こっちへあがれ」と命令があり仲間が加わる。2人で交互にすべる，2人手をつないでのぼる。しゃもじのとり合いする。
	6	砂遊び	9	砂型でプリンをつくる。「できた」「ほんとう？」など会話がある。
D	3	蛙のすべり台 〃	3 7	ジャンケンによって蛙をすべらせる方と受け取る方にわかれる。2人は交互する。 新しい仲間が「かせ」といってくる，かえるの入った缶を渡し「あ，おちた」と言っては専らひろう役になる。

ふたり遊びは平行的な遊びの中で連合的な結合をもつ最初の段階である。この遊びは，3才A児，B児においては6月以後に追いかけっこ，虫とり，手押車遊びにみられ，持続時間は3分～6分程度である。ふたりの結びつきは，相手の動作をまねる，ふたりが手をつないで歩くなど，直接ふたりの体を接触させるものと，車にのせてもらうなどの遊具を媒介した遊びとがみられる。C児については，遊具を媒介とした遊びがほとんどであり，その遊びの中で競争する，命令的ことばで主導的な立場をもつ，ふたりが交互にすべる，会話をもつなど自己主張とともに相手の立場を理解しようとする社会的態度がみられる。持続時間は2分～29分と3才に比較して長時間の遊びもみられる。なかでも29分間持続したふたり遊びの内容を分析すると，言語活動が活発でリーダー的なことばが多く，自己統制の能力の発達もみられる。また相手の気持を理解する力もあるなどの社会的生活を遂行するうえで必要な相互交渉の技術と，手押車が消防車になり，ジャングルジムの高い一本の棒がハンドルに変るなど豊かな想像性によるものと考えられる。D児のようにジャンケンの勝敗による役割分担がみられる。

これらのことから，ふたりの結合の方法は単純なものから複雑化への方向を示しており，時間的にも短いものから長い方へと発達するようである。

5. 連合的な遊び

個人記号	観察回数	働きかけの対象	集団	時間	働きかけ方
A	1	すべり台	4人	13分	4人が汽車になってつながってすべる。 途中停車しかけるとさいそくされる。
	4	おいかけっこ	6	8	リーダーの怪じゅうをまねて走る→鬼ごっこになる（怪じゅうにおわれて逃げる）
	6	砂遊び	2～3	15	「ぼくトンネルやるの」と一言声をかけられて2人でトンネルをほる。「スコップもってこい，」の命令に従う。スコップがふれ合ってよろこぶ。新しい仲間がくる，拒否するが入れてやる。
B	5	かごめ	8	9	仲間に入る。　鬼になる。 鬼のルールが理解できず途中で退散。
	6	砂場遊び（ごっこ）	3	19	ケーキやプリンを各自つくる→ケーキやさんとお客になって会話を伴なったごっこ遊びになる。

C	2	タイヤ遊び	6～7	8	タイヤを並べる→けんぱ遊びになる。とび方，順番をまつなどルールを理解して遊ぶ。
	5	けんぱ遊び	10	4	仲間に入る。順番をまつが自分の番にならないで保母の片づけの合図で中断。
		おしくらまんじゅう	12～3	8	いっしょに遊ぶ。
	6	砂遊び	2	9	「いこういこう」のことばで誘われ，砂をフルイにかけて遊ぶ。「だれか呼んできて」と命令。
		おとし穴	3	19	これに砂をかぶせておとし穴を協同でつくる。「ありがとう，ありがとう」と言いながらする。リーダーによってみ張り役，仲間をよびにいく役と分担して遊ぶ。
D	3	蛙遊び	4-2-6	4	リーダーの命令「はっぱもってこい」に従って葉を集めてくる。
	5	追いかけっこ	実習生4	7	「あの人が犯人よ，おいかけて」の突然の言葉から逃げるものと追うものに分かれて遊ぶ。

連合遊びは，ふたり以上の幼児たちが相互に関連をもちながら遊ぶ状態である。遊びの場は今までの遊具などが介在した遊びは減少し，かごめやけんぱ遊びなどの集団遊び，砂場でのごっこ遊びなどがあらわれる。連合のし方についてみると，遊具を使って友だち同志が相手のからだにつかまって汽車になる平面的なもの，砂を媒介にして3人が売る人，買う人の役割を分担してごっこ遊びをするなど，相互交渉はやや複雑化している。C児においては，タイヤ遊びのように6・7人の友だちが一つの目標のために協力してタイヤを並べて，遊びのルールを理解してけんぱ遊びができるようである。しかし，持続時間は8分くらいで短い。またおとし穴つくりの遊びでは，協力して穴をつくり，相手の協力的行動に対して，感謝のことばも出るようになり，遊びの発展とともに，新しい仲間を誘うなど，友だち同志のことば，動作による意志表示のコミュニケーションを行なう技術の発達がみられる。またB児のように，積極的にかごめの集団遊びに参加するが，遊びのルールが理解できないために，鬼の役割が果せず，遊びへの興味を失ない途中で他の遊びへ移行する場合もあり，ルールのある遊びやゲーム，ごっこ遊びなどを楽しむ協同的な遊びはこのつぎの段階と思われる。

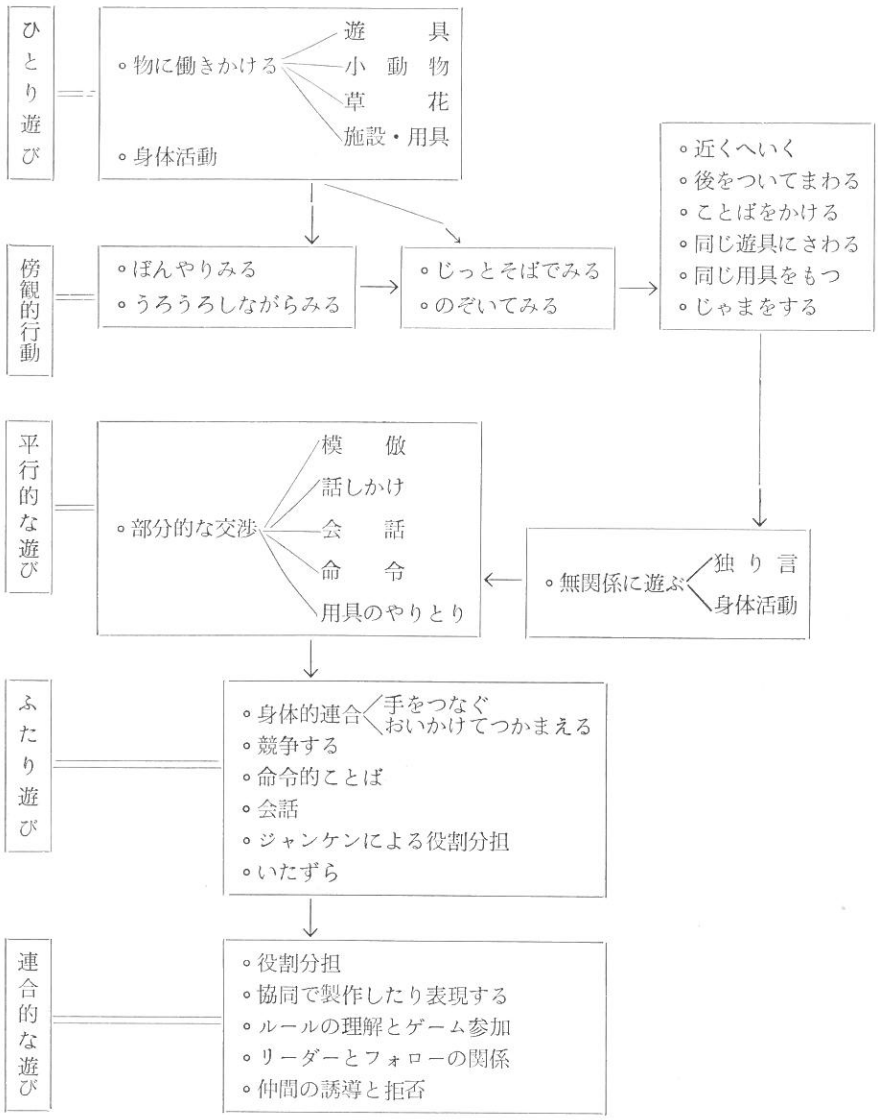
〔要　　約〕

遊びの段階別にあらわれた4児の社会的行動の変化を第1図にまとめ考察すると，幼児の社会性は，幼児自身の自発的な活動の中で芽ばえ，友だちとの遊びをとおして個から集団化へと発達する様相を理解することができる。

この発達過程において，遊びは幼児ひとりひとりが身体的，知的，情緒的発達と深い関係をもちながら，遊具を中心としたひとり遊びから傍観，平行的遊びの準備段階を経て友だちとの交渉をもち，さらにグループでの遊びのルールや，役割分担，協同的な行動などの社会的生活態度を習得していく大切な活動のようである。

この時期に発生した友だち関係が，今後，年令が進むにつれてどのように発展するかを明らかにしたのち，これを広く，深めるための遊びの指導について研究を進めたい。

第1図　　幼児の集団化の発達過程



参考文献

1. 浅野壽美子著　友だちと遊ぶ子どもの姿
2. 井口尚之他編　遊びの心情
3. 〃　遊びの創造
4. 教師養成研究会編，幼児の社会性指導
5. 岡田正章他編　幼児社会教育法
6. 田中熊次郎著　児童集団心理学
7. 津守　真　編　幼児の教育第67巻4号